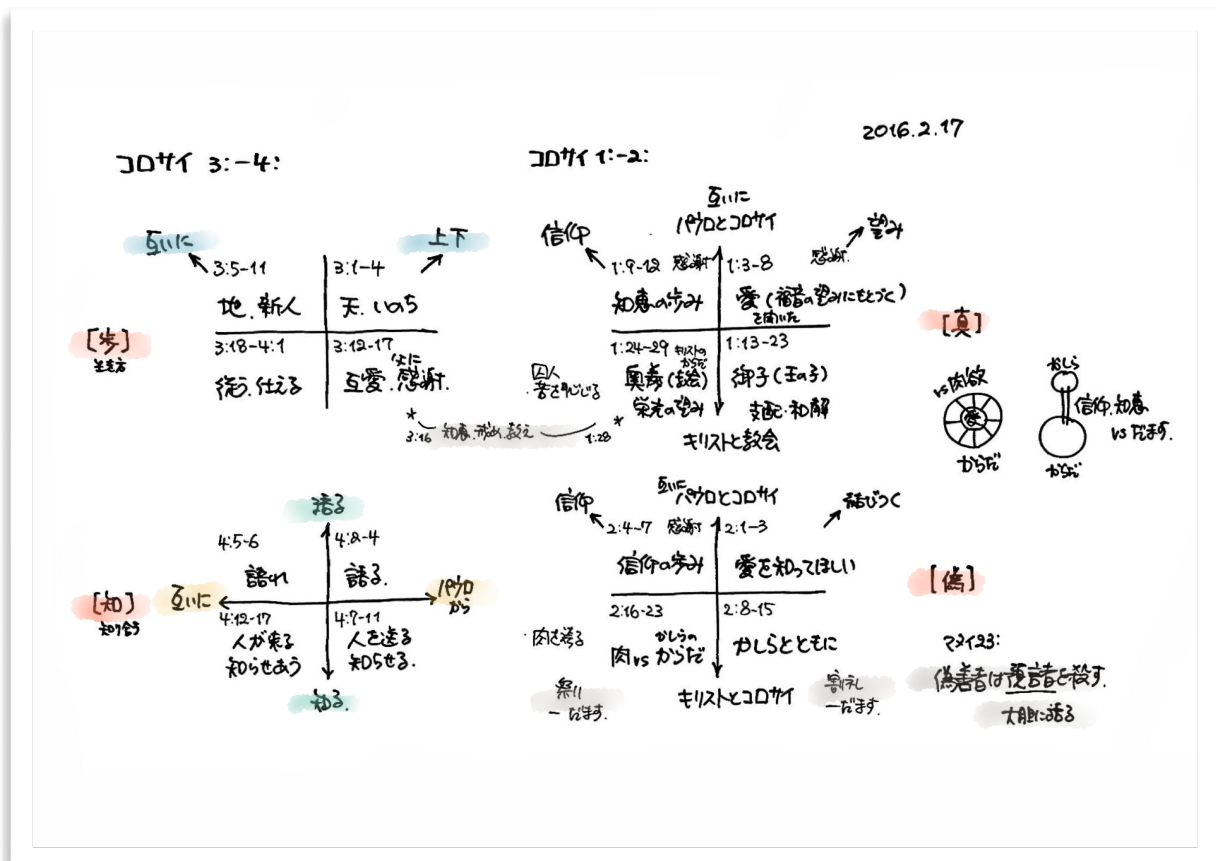




コロサイ人への手紙 1-4章 コロサイ人への手紙



コロサイの手紙の分析を初めてしています。

1章から2章と、3章からというふうに分けて見えています。エペソ人への手紙と似ている言葉、言い方もとても似ていますので、それを思い出しながらということをする、混乱しますから、まずはエペソを忘れて、コロサイだけに切り掛かろうということですね。

1章の形がちょっと難しいところがあるんですけど、ここ(2:1-23)とここ(4:2-17)の部分が、それぞれ短い(上段)と長い(下段)と、という構成になってるんじゃないかということ、この4つに分けています。

1章から2章の方は、天上の真理。その天上の真理が地上で表され、教会を通して表されているということが、3章から4章だと思えます。知恵、知ることはすごく多いです。神様を知ることもそうだし、お互いに知り合うということもそうですね。その知ることがとても多いのですけれど、真理について語っている1章と、偽りと戦うという2章。3章は、だからこのように生きなさい、このように歩みなさいという事と、最後4章の挨拶もこの手紙の長さからすると、すごく長いです。この人と、あの人と、この人と、この人と、そのお互いに知り合うという働きを知り合う、折り合うということが非常に強調されている。4分の1は、それという感じの手紙だと思うんですけど、その知らせ合う、知り合う、互いに労苦していることで励まされる。それは互いの愛、神様

に対する愛、福音の望みを失わない。その栄光の望みのために、からだ一つになるというために、お互いを知り合うということが、とても重要で教えられているものだと思います。

1章3節から8節。そして、エペソと同じように、長めの祈りが9節の「どうか」というところから12節まで、ここに祈りが入っています。最初は「あなた方のことを聞きました、福音をちゃんと聞いたんだ」ということを、「あなたがたの愛を聞いて喜んでいきます」というところから始まるんだよね。それに対して、2章の出だしのところは、「私のその働き、苦勞していること、あなたがたを愛していることを知ってください」というような出だしで始まったりしますね。まず、「あなた方のことを聞きました。その愛を知っています。」いうところから、この手紙が始まっているということです。知恵の歩みをしてくださいと。

ここ(1:13-23)で日本語だと「御子は、御子は、御子は、御子は」というふうになっていますけど、最初に「御子」という言葉があって、その後は代名詞「彼は、彼は」みたいな感じなので、「御子」という「SON」。御子という言葉自体が何度も何度も出てくるわけではないけれど、御子について語っていると。その支配について語っているという事はそうですね。その御子のからだである教会というのが、こちらですね。

2章の偽りと戦ってくれ、戦うようにと言われているところも、ここ(2:8-15)に、かしらキリストとともに、というキリスト側が強調されているのと、キリストのからだが強調されているところというふうに(2:16-23)分かれていると思いますね。かしらとともにという方の偽りですから、騙しているのは割札を受けなきゃダメだと言って騙す。肉の欲の方の話は、祭り、食べ物、飲み物を守らなきゃダメなんだと言って騙すような、騙す敵がいると。

ここに書いてあるのは、「かしらとからだ」がいて、かしらに信頼しているかしらを知っているという事について騙すんだね。欺く、騙す。このかしらとからだを離そうとするという偽りの攻撃と、からだの中に結びの帯が愛なのに、その愛を否定して、愛のかわりに貪りを入れると、からだがバラバラになると。その偽りと欺きみたいに。その偽りの攻撃が、かしらと離す話と、からだの中でその攻撃をするという2つが、その偽りの攻撃、真理に対しての偽りの攻撃ということだと思われま。

マタイ23章にあるように偽善者というのは、預言者を殺すという人達です。その大胆に語るという、教え合う、戒め合う。知恵をもって戒め教えというのが、この1章の段落と後半の3章の段落に、同じ言い方があるのも興味深いですね。天の父を知っているから、だから地上の主人に仕えるんだと。この3章18節からのところで多いのは、奴隷の段落がいちばん長いですね。これは囚人となっているパウロということです。

最後の挨拶(4:2-)は、知り合う、知らせ合うということになっていますね。それがとても強調されてる手紙です。

前に分析していた時は、コロサイの手紙は4つ、ガラテヤ、エペソ、ピリピ、コロサイ。コロサイの手紙は、偽りの証言をしてはならないという、偽りに対して戦うんですよということを肯定的に教えるというような手紙の役割だということで、真理をもって戦うというふうに考えてたんですけど、そうではなくて、偽りに対しては、偽りの攻撃は、かしらから離そうとする。もしくは、愛を疑わせるという中の愛を崩してしまうということなんです。これに対して真理で戦うんじゃなくて、ここの信頼ですね。この信頼を保つということね。お互いを知り合う。それは、ひとことで何かと言うと「感謝」。「感謝しなさい。父に感謝しなさい。感謝しなさい。感謝しなさい。感謝しなさい。」とい

うように、感謝が強調されていますよね。ですから、偽りに対して何で戦うかという
と、感謝、賛美で戦うというのが、このコロサイの教えているところだと思います。